



MONTHLY

かわせみ通信

9月号

2022年9月

Vol.157

発行所



ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号 (〒510-0023)

TEL.059-332-5122 (代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

未来を拓く 研究室訪問

当社では、事業レベルの高度化や新サービスの開発において多くの大学の先生に助言を頂いたり、共同研究をさせて頂いています。そんなお世話になっている先生の研究内容について、インタビューさせていただき、その内容を大胆に抜粋して未来技術の今をお伝えします



鹿児島工業高等専門学校
都市環境デザイン工学科
教授 山内 正仁 先生

◆先生と当社との関係◆

当社関連会社のスジアオノリの陸上養殖工場(南伊勢マリンバイオ)へ、見学に来て頂いたことがお付き合いの始まりでした。鹿児島でスジアオノリの育成条件等の研究テーマを扱っていきたくとのことで、現地との情報交換が行われています。

先生の最近の研究

研究の内容

廃棄物資源(特に地域資源)の高付加価値利用を中心とした研究を行っている。鹿児島県という土地柄もあり、焼酎粕等の地域バイオマスの利用や、下水処理で生じる汚泥を利用した肥料開発に取り組んでいる。

焼酎粕・でん粉粕の資源循環システム▶



研究の魅力

食と下水道の連携による下水道資源の有効利用の促進を目指す取組み「BISTRO(ビストロ)下水道」というプロジェクトに参加している。産官学の連携によって地域が活性化し、地域の人に受け入れられることで、環境問題の解決に繋がること。

BISTRO 下水道の詳細はこちら▶<https://www.jswa.jp/recycle/bistro/>

研究の課題

国は汚泥を地域内で循環させるように指導しているが、下水汚泥の農業利用率は14%程度で10年近く変わっていない。昔のガイドラインなどに縛られているため、そういった見直しや改正要望に時間を要してしまう。

先生から伝えたいこと

従来の汚泥利用は重金属が高いなど懸念されていたが、地域バイオマスを混ぜるなど解決策はあるはず。何が問題となり、汚泥利用が進まないのか、データを揃えて改善できることがないのか、研究を研究で終わらせるのではなく、事業化を目指し地域産業が循環し、地産地消で活性化させていくことが重要だと考えている。

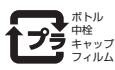
インタビューの感想

日本では農業・食品に関わる資源を輸入に依存しており、肥料の高騰や物価上昇は今後も懸念されると思います。地域特有の廃棄物を、地域産業に活かしている先生の研究活動は、SDGsにも深く繋がっていると感じました。残念ながら三重県には BISTRO下水道の活動によって栽培された作物はないようでした。こういった活動は全国への拡大を期待したいです。

教えて！ カワセミ先生



推奨



キャップ: PP
ラベル: PS

スーパー等で食品トレーが回収されているのは見かけたことがあるよね。ところがこのリサイクルでは、カップ麺容器は回収不可となっているんだけど、同じ「プラ」なのになぜだろう？実はこれ、再生用途によるものなんだ。スーパー等で集めているのはPSP(低発泡ポリスチレン)で、同じ食品トレー等に再生する工程上、カップ麺容器のように各社によって素材(紙・PE等)が異なる「プラ」を予め除外するためなんだ。そもそもプラマークは、外見上識別が困難な類似の物質を識別するため、容器リサイクル法で表示が義務付けられているもので、飲料・酒類・特定調味料用のPETボトルを除くすべてのプラスチック製品が該当するんだよ。材質の表示義務はないけれど、プラマークの下部に記載が推奨されているよ。ただし汚れていたり、プラマークの付いているもの全てがリサイクルできる訳ではないので、回収ルールに従うことが大切だね。

同じプラでも食品トレー回収では回収不可って どういこと？

セミナーご案内

第5回/第6回 WEBセミナー 開催のお知らせ

下記、両セミナーとも参加費無料ですが、Zoomでの開催につき、事前申込みが必要です。お申し込みは弊社HP TOPICS <https://www.tokai-techno.co.jp/topics/> にて皆様のご参加をお待ちしています。

第5回「LABELS-RS 試薬管理システム」

試薬管理における多くの悩みを解決すべく、分析会社である弊社のIT技術員と分析技術員が協力して開発したソフトで、自社開発ならではの細かい要望を反映した簡単で便利な機能をご紹介します。

開催日時

2022年
10月5日(水)
16:00~17:00

第6回「マスクフィットテストのご案内」

金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場で溶接作業員に対して今後義務付けられる呼吸用保護具(マスク)のフィットテストについて、何を準備すればよいのか、わかりやすくご説明致します。

開催日時

2022年
10月27日(木)
14:00~15:00

社員プチコラム

信博(コーポレート本部 ICTグループ)

ロボカップという自律移動型ロボットによる競技会をご存じでしょうか?「2050年までにサッカーのワールドカップ優勝チームに勝つような自律型ヒューマノイドロボットを作る」が目標の競技会で、大学の頃に車輪のついた中型機という部門で参加したこともあって今でもロボットは好きです。2000年当時、人型ロボットの中でも世界初の本格的な2足歩行を実現したホンダのASIMOを一般公開で横浜まで見に行った時は衝撃的でした。そんなASIMOも今年3月に引退して時代の流れを感じます。今ではバク宙ができるロボットも登場し、2050年が楽しみですがその時には72歳か…



編集後記

今月伺ったインタビューでは、廃棄物を活用するだけにとどまらず、循環していく仕組みづくりを考えられていることに非常に感銘を受けました。一方、食品トレーの回収率は30%程度とのこと。手作業による分別が重要であり、これでは回収率があがらないのも仕方がないと思いました。プラスチックの自動分別の普及が待ち遠しいです。(みっちー)

